

令和7年度第1回飛騨・世界生活文化センター評価員会議 議事要旨

○日時：令和7年8月25日（月）10：30～12：00

○場所：食遊館3階 特別会議室

○出席者：

【評価員】

岩塚久案子、沖畠康子、河渡正暁、布目美智男、丸山千絵

【指定管理者】

センター長 野尻修二、副センター長 大萱真紀人、統括 六角裕治、他職員3名

【岐阜県（文化創造課）】

課長 大口英徳、文化施設係長、文化施設係担当

【評価員会議 議事要旨（質疑応答・意見）】

<評価員>

- ・ p15に記載の除雪費の35万はどこに計上されているのか

<指定管理者>

- ・委託料に含まれる。

<評価員>

- ・スポット修繕や備品関係はどこに計上されるのか

<指定管理者>

- ・スポット修繕は委託料に含まれ、備品関係は消耗什器備品費に含まれる。

<評価員>

- ・備考に記載があると良い。

<評価員>

- ・安全管理について、大雨、大雪、熊被害などがあったかと思うが、昨年度苦労された点や予想外の出費となったことはあったか。

<指定管理者>

- ・経費は計画内で収まった。熊対策として、市内で目撃情報があった際はふれあい広場の自動ドアは手動とした。また張り紙でお知らせもを行い、それについてクレームはない。
- ・大雨など有事の際には避難所を40分ほどで開設できるようスタッフにノウハウがある。また、コンベンションホールは保健師が入り、レッドゾーン（感染者）の受け入れも可能となるよう連携をしている。

<評価員>

- ・除雪を含む委託料が計画内であったとのことだが、費用としてこの額の支出を想定していたのか。

<指定管理者>

- ・除雪用の車両を運転できる免許を持つ職員が二人おり、雪かきを職員で行うため経費の削減となっている。

<評価員>

- ・QRコードによるアンケート回収について、回収率はどうだったか。

<指定管理者>

- ・若い客層をターゲットとしていた企画の回収率が上がった。

<評価員>

- ・今年度より副センター長2人体制となったが、変化はあるか。

<指定管理者>

- ・副センター長の人脈から次の企画につなげてもらっている。稼働率の上昇に尽力している。

<評価員>

- ・減免について、地域のスポーツクラブも対象なのか。

<指定管理者>

- ・対象としている。

<評価員>

- ・お仕事発見隊に関わらせてもらっている。ミュージカルを見て裏方に興味をもった子が参加し、照明のタイミングや色の作成の大変さを学んだと聞いている。こういった子供たちにたくさんの学ぶ、体験する機会を与えられるような持続可能な施設の在り方を探ると良い。

<評価員>

- ・オープンカレッジについて、新しい分野を増やしてほしいとアンケートに記載があるがどのように選出をしているか。

<指定管理者>

- ・できるかぎり講師は変えて呼ぶようにしているが、「なぜ今年はこのテーマが無い？」との声をもらうこともある。

<評価員>

- ・趣味の延長よりというよりかは、もっとアカデミックに学びたい層もいると思う。
- ・芸術分野を増やしてほしい。
- ・認知度が足りない。もっと広報に力を入れるべき。

<指定管理者>

- ・最近は市民時報や新聞はあまり読まれないため、効果的な広報の方法を探っているところ。

<評価員>

- ・煥章館での勉強会とはまた違う学びの場。能動的に学べる場所であり、中学生・高校生など今一番活躍している方に参加してもらえるようにすると良い。

<指定管理者>

- ・市内の高校にはチラシを配布してPRしている。20代30代の方の目に触れるにはどうしたらよいか、模索している。

<評価員>

- ・今年度オープンカレッジを受講した。とてもレベルが高い。知の文化を今後もつなげてほしい。
- ・予約システムがリニューアルによりクレジットも利用可能となったと聞いている。

<指定管理者>

- ・予約システムについて、高齢者の方など操作方法が分からぬ方には事務室で案内をしている。

<評価員>

- ・飛騨の家具フェスティバルには毎年見に来ている。地元産業のすばらしさを感じ、地元市民も気軽に楽しめる。ぜひ今後も続けてほしい。

<評価員>

- ・冒頭、センター長もおっしゃったが、事業の継続がいかに大変か伝わってきた。

<指定管理者>

- ・さらに有意義な結果となるよう努力していく。

<指定管理者>

- ・今後の展望として、ゆくゆくは東京藝術大と音楽関係で連携したいと考えている。大学の先生方に、この施設でこんなことができる、ということを知って頂き次につなげていきたい。また、提案の際にプラスアルファでの働きかけが有効だと思っている。

<評価員>

- ・学校と共同して行う活動について、ぜひ高山市以外の学校にも手を広げてほしい。

<評価員>

- ・防災の拠点として避難所開設等のノウハウがあるのであれば、それを周囲に伝授していくと良い。

<評価員>

- ・市内中学校から依頼を受け、避難所設営体験を行っている。また市内のまちづくり協議会がセンターへ見に来ることもあり、ノウハウを共有している。

<評価員>

- ・20年以上が経過した施設であるので、今後も維持管理を頑張っていただきたい。